

■ 施工事例



■ ゼロセメント配合について

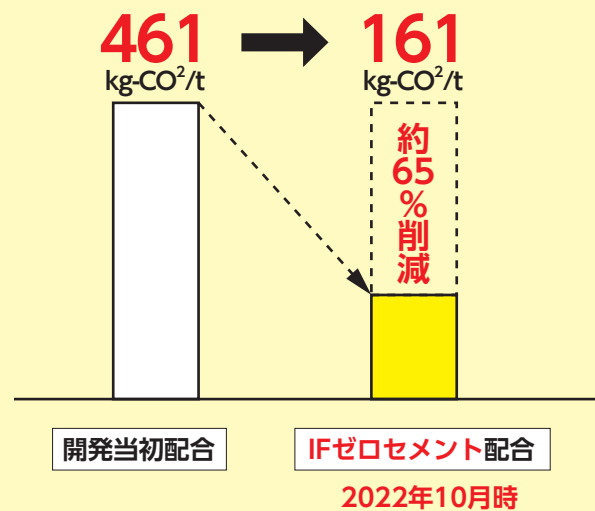
セメントフリーへの取組み

コンクリートの原料であるセメントは石灰石や石こうなどに約1,450度の熱を加えて焼成して作るため、セメント1トンにつき約750キログラムものCO₂が発生し、セメント由来のCO₂が国内排出量の約3%を占めている現実があります。

インフラテックでは、セメントの代わりに製鉄副産物である高炉スラグを使用したIFゼロセメントコンクリートによる製品の製造を開始し、製品製造時のCO₂排出量を限りなく削減することに取り組んでいます。

IFゼロセメントによるCO₂排出量削減効果

1t当たりのCO₂排出量 (kg-CO₂/t)



【ゼロセメント】対応：特注製品となるため、数量・納期については営業担当にご相談ください。」



注意

●施工に不備があると、損傷などの原因となることもあります。不明な点は弊社または販売代理店にご相談ください。
●本カタログに記載する製品の仕様および性能は、該当製品の一般的な使用条件として提示するものです。特殊な条件で使用される場合には、事前に弊社の担当者にご相談の上、技術的な確認を行ってください。

インフラテック株式会社

本社
〒890-0062 鹿児島市与次郎2-7-25
Tel.099(252)9911 Fax.099(259)4100
<http://www.infratec.co.jp/>

〈GRC製仕切り板〉

エッジボード

ゼロセメント配合可能

詳細は裏面を参照

■従来のプラスチック製品と違って、直線部が美しく仕上がります。

■薄板なので、1mRのカーブも対応可能。美しいエッジラインを演出します。

■主材がGRC製で熱に強く、アスファルト施工にも対応できます。*GRC:ガラス繊維補強セメント

■敷地の有効利用が可能で段差ができないバリアフリー対応です。



エッジボード〈GRC製仕切り板〉

エッジボードは、芝生やグラウンドカバープランツと舗装材や砂地や植込みとの間に、綺麗な境界線をつくる新しい見切り材です。従来使われていた波板や杉板などの見切り材に比べて、様々な点で優れ、これからの公園づくりや街の景観整備にすばらしい効果を発揮します。

■特長

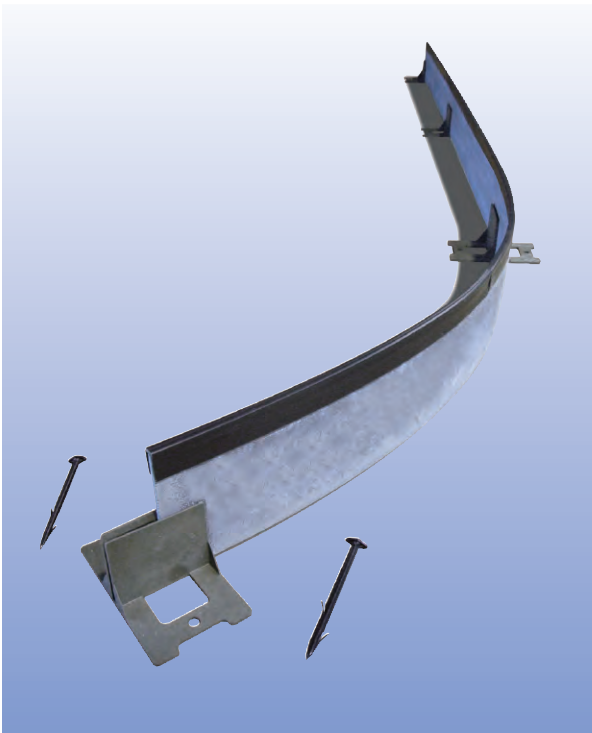
エッジボードは、GRC(ガラス繊維強化セメント)で製造された製品です。また、側溝用埋設型枠として、全国で20年以上のご愛顧を頂いているKCフォームと同じ原版から切り出した製品ですので、安心して施工していただけます。

さらに、エッジボードの最大の特徴は、コンクリート製品なのに曲がるという点です。ゆっくりと製品の各所を押し出すように曲げると半径1m程度のRにすることも可能です。

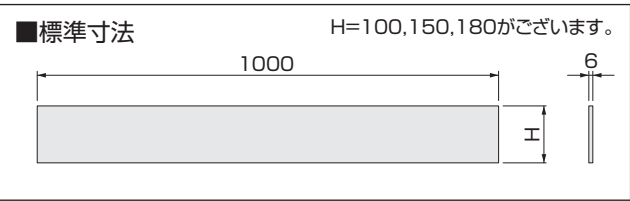
エッジボードは施工も簡単です。ベースを1m間隔で置き、本体をベースに差し込むだけです。用途に応じて、舗装時の転圧を緩衝する天端カバー、ベースのズレを抑制するアンカー、芝生が本体の継ぎ目から侵入することを防止する継ぎ目テープもご用意しています。

■用途

- 園路・歩道における見切り材
 - ・インターロッキング舗装
 - ・コンクリート舗装
 - ・アスファルト舗装 ・樹脂系舗装 etc
- 敷き砂流失防止
 - ・サンドクッションで施工する舗装材において、勾配の急な場所での敷き砂が流失することを防止します。
- 地先境界ブロックの代用
 - ・施工費を含めるとエッジボードの方が地先境界ブロックより安価になります。当初、エッジボードは舗装の見切り材として開発しましたが、安価で施工性が良いことから、上記の他にもいろいろな場所で使いたいとのご要望を頂いております。



■形状・寸法



園路や遊歩道に最適

園路等の見切り材として

天端幅が6mmなのでスッキリとした景観を創出できます。

敷砂の流出は不陸の原因になります

舗装材の敷き砂流失防止として

ロック系舗装の、不陸の原因の一つである敷き砂の流出を防止します。

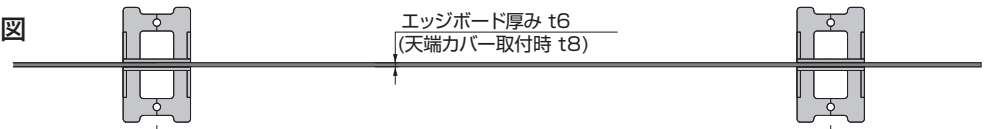
縁石よりもすっきりした仕上がりになります

インターロッキング舗装の見切り材として

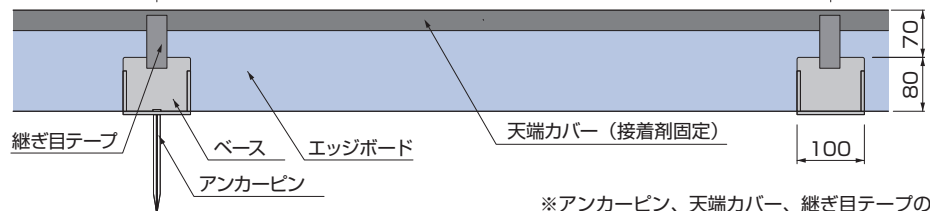
基本的に歩行者系道路あれば、インターロッキングの見切り材として使用できます(路盤構成に応じたサイズを使用します)

■標準施工図

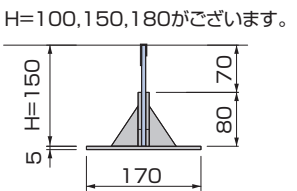
■平面図



■正面図



■側面図

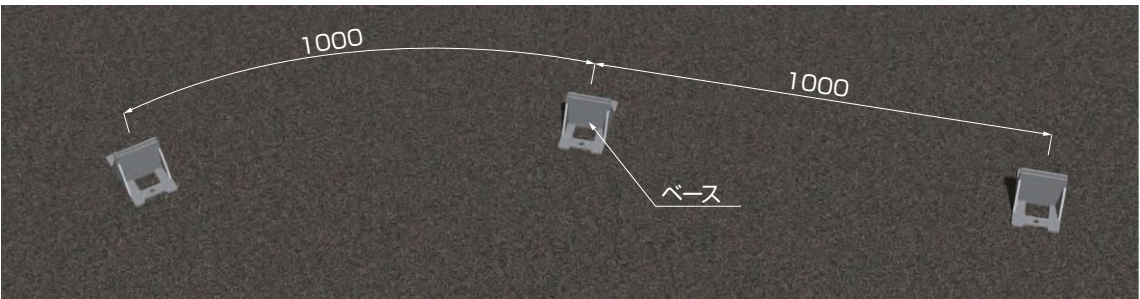


※アンカーピン、天端カバー、継ぎ目テープの使用については 下記施工手順を参照ください。

■施工手順

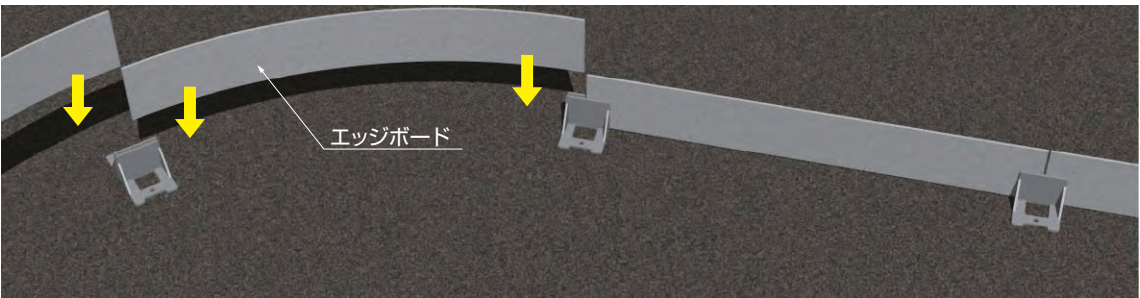
① ベース設置

床掘り後、高さを合わせて、エッジボード本体の継ぎ目の位置にベースを設置します。



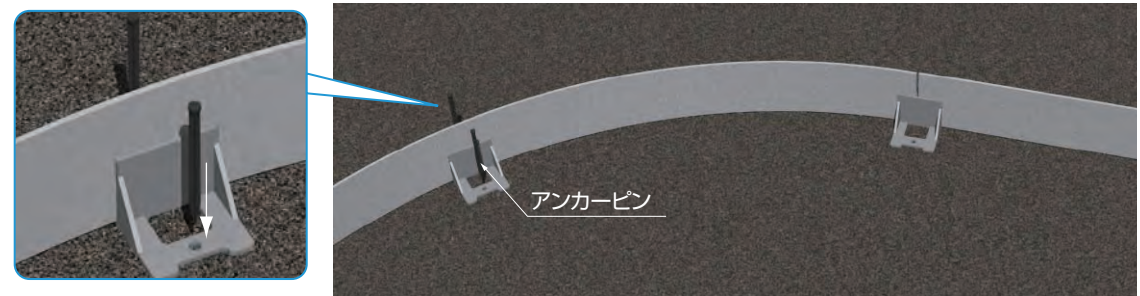
② エッジボード挿入

ベースのスリット部にエッジボードを挿入し、高さを微調整します。
R部分は、所定のRになるように、手で少しずつ曲げてから挿入します。急激に曲げると割れる場合があります。



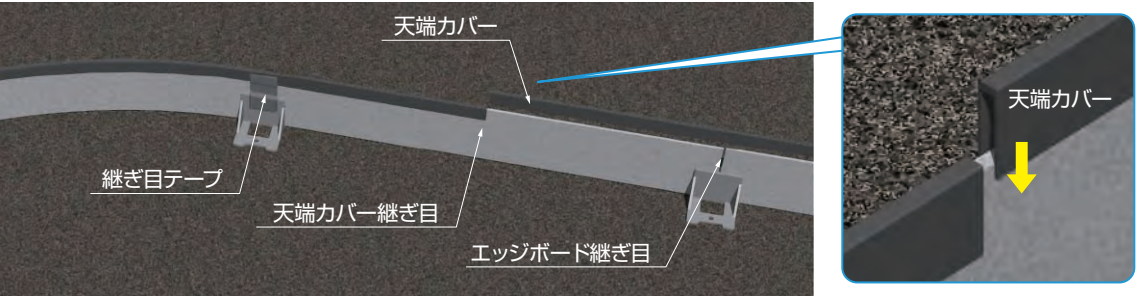
③ アンカー打込み

ベースにアンカーピンを打込みずれないようにします。(カーブ部など、ベースが動く可能性があるところだけでもOK)



④ 天端カバー

エッジボードの継ぎ目と天端カバーの継ぎ目が、重ならない位置に挿入します。
芝生・雑草等の根の侵入の防止と、天端カバーのズレ抑制を兼ねて、エッジボードの継ぎ目にテープを貼ります。



※天端カバーは転圧時に製品天端を保護する役割ですので、コンクリート舗装等の転圧をしない舗装の場合は必要は ありません。天端カバーはアスファルト舗装の冷却時に縮み、継ぎ目に隙間ができる可能性があります。隙間が目立つ場合は、天端カバーの余りを切って挿入してください。

※天端カバーを使用する場合には、天端カバーとエッジボード本体を接着剤で固定してください。

※舗装材側の基礎材及び埋め戻しと反対側の埋め戻しは製品がズレないように均等に投入してください。さらに、埋め戻した材料を数回に分けて足で 踏み固めると、製品がより強固に固定されます。